

魚介類の分析結果 <福島第一原子力発電所20km圏内> (Sr)  
 2022年度 第1四半期

採取地点	試料名 (部位)	採取日	分析項目		分析機関
			Sr-90 (Bq/kg(生))	参考 Cs合計 (Bq/kg(生))	
小高区沖合 3 km 付近(T-S2)	クロソイ(全体)No.1	2022/5/19	< 1.0E-02	3.6E+00	九州環境管理協会
1 F 敷地沖合 3 km 付近(T-S4)	ムシガレイ(全体)No.1	2022/6/23	3.5E-02	3.9E+00	KANSOテクノス
木戸川沖合 2 km 付近(T-S5)	ホシザメ(全体)No.1	2022/5/31	< 7.8E-03	3.7E+00	九州環境管理協会
熊川沖合 4 km 付近(T-S8)	カナガシラ(全体)No.1	2022/6/28	3.6E-02	3.8E+00	KANSOテクノス
請戸川沖合 1.8 km 付近(T-B2)	ババガレイ(全体)No.1	2022/5/24	9.7E-02	4.1E+00	KANSOテクノス

- ・核種毎の半減期：Sr-90(約29年), Cs-134(約2年), Cs-137(約30年)
  - ・不等号 (< : 小なり)は、検出限界値未満(ND)を表す。
  - ・基準値(2012年4月1日以降)Cs-134、Cs-137の合計：1.0E+02Bq/kg。
  - ・Csは可食部(筋肉)で測定、Srは骨を含む魚全体(内臓以外)で測定。
  - ・○.○E±○とは、○.○×10<sup>±○</sup>であることを意味する。
- (例) 3.1E+01は3.1×10<sup>1</sup>で31, 3.1E+00は3.1×10<sup>0</sup>で3.1, 3.1E-01は3.1×10<sup>-1</sup>で0.31と読む。

魚介類分析結果<福島第一原子力発電所20km圏内>(H-3)

採取地点	試料名 (部位)	採取日	分析項目				参考 Cs合計 (Bq/kg(生))	試料名	採取日	H-3 (Bq/L)
			H-3(Bq/L)		H-3(Bq/kg(生))					
			組織自由水型	有機結合型	組織自由水型	有機結合型				
熊川沖合4km付近 (T-S8) <sup>※1</sup>	ヒラメ(筋肉)	2022/5/10	5.7E-02	< 2.7E-01	4.4E-02	< 4.3E-02	ND	海水	2022/5/9	7.0E-02
熊川沖合4km付近 (T-S8) <sup>※1</sup>	ヒラメ(筋肉)	2022/6/28	7.5E-02	< 2.7E-01	5.7E-02	< 4.1E-02	ND	海水	2022/6/27	7.5E-02
								WHOの飲料水水質ガイドライン <sup>※2</sup>	1.0E+04	

- ・海水の採取深度は表層
- ・核種毎の半減期：H-3(約12年)，Cs-134(約2年)，Cs-137(約30年)
- ・不等号(<：小なり)は，検出限界値未満(ND)を表す。
- ・測定対象外および採取中止の項目は「-」と記す。
- ・〇.〇E±〇とは，〇.〇×10<sup>±〇</sup>であることを意味する。  
(例) 3.1E+01は3.1×10<sup>1</sup>で31，3.1E+00は3.1×10<sup>0</sup>で3.1，3.1E-01は3.1×10<sup>-1</sup>で0.31と読む。
- ・基準値(2012年4月1日以降)Cs-134，Cs-137の合計：1.0E+02Bq/kg。
- ・組織自由水型トリチウムとは，動物の組織内に水の状態で存在し，水と同じように組織外へ排出されるトリチウム。  
有機結合型トリチウムとは，動物の組織内のタンパク質などに有機的に結合して組織内に取り込まれ，細胞の代謝により組織外へ排出されるトリチウム。
- ※1 分析機関：(株)化研または(一財)九州環境管理協会
- ※2 WHOの飲料水水質ガイドラインにおける，H-3の指標
- ・分析結果の評価については「福島第一原子力発電所の状況について(日報)」を参照 <https://www.tepco.co.jp/press/report/>
- \*モニタリング強化で追加した地点については測定データ確認中。